

主任教授からのメッセージ

当科は女性医師が概ね半数在籍し、女性医師自身のキャリアの継続のためにも、診療科としての全体の診療業務の円滑な推進のためにも女性医師の支援は極めて重要です。女性医師と現場との実際の業務内容や出勤曜日・時間などを考慮することで、さらに相互に有意義で、成果が上がります。諸々の出来事や要望に応じて勤務体制が適時に柔軟に改変できることが理想的ですが、これには他の医師、特に男性医師の理解が重要で、社会としての経験と理解を要します。幸い当科では女性医師自身の努力や教室医師の理解を基に、これまで多くの女性医師が専門医取得やキャリアの継続やキャリアアップに繋げてきました。この関西医科大学の女性医師支援が、女性医師にとって、業務と育児などのメリハリのある時間割り振りや、キャリアの継続、保育所確保にもつながり、最終目標である将来の発展的キャリアアップに繋がることを願っています。

○ 診療科の特徴

全身の体表面の外傷や生まれつきの変形、腫瘍切除後の再建手術を行います。外傷(ケガ、やけど)、潰瘍や床ずれ(褥瘡)、傷あと(癍痕)やケロイド、皮膚や皮下のできもの(良性腫瘍・悪性腫瘍)、生まれつきの変形(唇裂、口蓋裂、小耳症、多指症合指症など)、事故による組織欠損や他科での腫瘍切除手術後(乳房再建、顔面や食道、咽頭、喉頭の再建)は主に手術で治療します。救命救急センターと連携し、重症熱傷や顔面外傷・骨折の治療、マイクロサージャリーの手技による切断指再接着も行っています。

手術だけでなく先進の各種皮膚レーザー治療を積極的に行っており、赤アザ(血管腫)、黒アザ(色素性母斑など)、青アザ(太田母斑、異所性蒙古斑など)、茶アザ(扁平母斑など)(以上は保険治療)だけでなく自費治療でシミ治療や脱毛も対応しています。また、加齢現象である眼瞼下垂、シミ、シワの抗加齢治療も行っています(レーザー治療と抗加齢治療の一部は自費治療となります)。

○ 診療科で働く女性医師

形成外科は皮膚科、眼科、女性診療科、小児科に並んで女性医師の多い診療科で、関西医大形成外科の過去5年間の新入局員の半数が女性医師です。現在、日本形成外科学会の新入会員も4割以上が女性医師を占めます。

職場復帰への取り組みについて

○ 復帰までの道のり

	内容	指導下	独立
外来	再診	1～3か月	4か月以降～
	初診	1～6か月	7か月以降～
手術	簡単なもの (外来局所麻酔手術等)	1～3か月	4か月以降～
	複雑なもの (入院全麻手術等)	1～6か月	7か月以降～
病棟	入院患者受け持ち	1～4か月	5か月以降～

○ 研修内容

当科では上記のようなプログラムを考えています。実際には休職前の経験度やブランクの期間により実地レベルや対応時期により異なってきます。上級医に指導を仰ぎつつ、専門医取得へ向けて個々のペースで臨床経験を積んでいきます。

○ 女性医師キャリア形成支援担当医師からのメッセージ

女性医師が着実に増える一方で、結婚や出産・育児によってキャリアの中断を余儀なくされる場合も多いと思います。しかし、当科では出産後も専門医取得に向けて復職し、キャリアアップを目指してチャレンジする女性医師がほとんどです。

出産後、育児休暇をどのくらいの期間取得するか、またどのような勤務形態で復職するか（短時間正職員制度またはフルタイム復職など）を、事前に話し合った上で、復帰して頂きます。出産、育児と仕事の両立は、その方のお考えや目的意識、ご家庭の状況、母子の体調などによっても千差万別で、希望する復帰日や勤務時間、復帰後の業務内容のすり合わせを面談で十分に行うことが重要と思います。



▶ 復帰した医師の声

体験談（K先生）

私は卒後4年目に産出し、約1年の産休、育休を取得した後、総合医療センターで復職しています。大阪市の認可保育園は、0歳児での途中入所の倍率がかなり高く、区によってはほぼ不可能です。総合医療センターも附属病院と同じく、保育園が併設されているため、0歳の時点での復帰も可能です。私の場合は、復帰時点で子供が1歳になっていたため、自宅近くの認可保育園に日中預けており、現在もフルタイムでの勤務を続けています。

総合医療センター形成外科は、常勤医師6名、女性医師枠の医師1名の体制です。子育て世代のスタッフが多いため、子供の急な発熱の際なども理解をして頂き、とても助かっています。また当施設では、熱傷、外傷、皮膚悪性腫瘍、乳房再建など多岐にわたる症例を経験することができるため、専門医取得を目指す先生方にとってもメリットが多いと思います。教室には子育てをしながら専門医を取得している女性医師の先輩方も多くいらっしゃるため、アドバイスを聞きながら、私自身も来年度の専門医取得に向けて日々研鑽を積んでおります。周りの先生方に助けて頂きながらではありますが、主治医、執刀医なども任せてもらえるため、外科系医師としても大変働きがいのある職場です。

私自身、研修医時代に何科に進むかかなり悩みましたが、今は形成外科を選択して良かったなと思っています。外科系を目指す女性医師の皆さん、是非一度教室を訪ねてみて下さい。

体験談（K先生）

出産後に育休取得後にフルタイムで復職し、附属病院で勤務しています。ブランクがあったため、復職してからも慣れるまでは、臨床で不安な面は上級医に指導を仰ぎつつ、手術や外来、病棟業務などをおこなっていきました。また同じ医局員で、育児をされながら研究や勤務を継続された女性の先輩や同期に様々なアドバイスを頂けたことも大きな助けとなりました。大変な中でも勤務を続けられたのは、医局からのサポートを頂けたことと、臨床の面白さを追求したいという気持ちがあったからだと思います。

当教室にはどの分野でもスペシャリストの先生がいらっしゃり、丁寧にご指導頂けたこと、大学病院、関連病院で多くの経験を積ませて頂けたことが現在の礎となっていると感じる日々です。制約が多い環境でも臨床医として活躍の場を与えて頂き大変感謝しております。

● 講座ホームページ 関西医科大学 形成外科学講座 <https://kmu-prs.adiva.jp/>